

# パンプキンおじさん

あの村へ行けばきっと会えるさ、あ～は  
かぼちゃの匂いが脇から出ている  
かぼちゃっぽいおじさんに会える

あの日僕はいつも通り帰り道を歩いていた  
僕の友達のネネちゃん家から帰る帰り道だった  
帰路に就いた僕に声をかけたのは  
親友のボブだった  
ボブは今日もボクサーに  
ボッコボコにされた帰り道だった…突然  
大きな声がする誰かの叫び声がする  
見上げた空に黒いドット  
それはどんどんデカくなるドット  
意識が飛ぶ瞬間人影と共にかぼちゃの匂いが

あの村へ行けばきっと会えるさ、あ～は  
かぼちゃの匂いが脇から出ている  
かぼちゃっぽいおじさんに会える



歌：オーイシアツシ

ふと、気がつくとそこは  
甘いかぼちゃの匂いのする部屋だった  
だけどそこにはおじさんが  
ただ一人座っているだけ…突然  
おじさんが言った  
『わしは君達のおかげで助かったんだ』  
と、続けておじさんは  
『だからわしから君にお礼の品をあげよう』  
すると向こうから  
おじさんの気合いの入った掛け声が聞こえてきた  
『どうだいわしの料理のお味は』  
『美味しい!おじさんこれ、一体なに入ってんの?』  
『それはな…秘密じゃ。

明日友達100人連れてきなしゃい』

今日もパンプキンおじさんの  
命を張った料理を食べよう  
具材はパンプキンおじさんの  
腕や足や頭さ～、ワー!!

あの村へ行けばきっと会えるさ、あ～は  
かぼちゃの匂いが脇から出ている  
かぼちゃっぽいおじさんに会える  
そんなおじさんに心からありがとう歌おう  
みんな手を合わせ『頂きます!』  
遠慮は要らないさ、おかわりも自由だ。ヤッター!  
シャランラーありがとうパンプキンおじさん